

協働のガイドライン～ステークホルダーと科学者の実りある協働のために～

(拡大グループリーダー会議・ブレインストーミング (2010年2月28日～3月1日)での議論を整理したメモ)

協働のガイドラインとは

【背景】

- ・ 科学者が生産する科学的知識の体系は、地域に暮らす人々の知識体系や意思決定メカニズムとは異なっているため、十分に活用されないものとなっている。地域の問題解決に貢献する科学が必要

【目的】

- ・ 地域社会のステークホルダーと科学者とが、問題解決に必要なとなる多様な知識を生産し活用するための指針

【使い方】

- ・ ステークホルダーと科学者が、問題解決にあたってどうつきあったらよいか、その作法と留意点を確認し、各自の状況を振り返り問題解決プロセスを進めていくための参照点

【ガイドラインの更新】

- ・ 各地域の多様な状況からの情報をフィードバックし、地域環境学ネットワークで共有すべき内容として協働のガイドラインを更新する

協働のガイドライン3つの柱

(1) 順応的問題解決プロセスを機能させる

【スタート】

- ・ 地域に固有な風土、その中で綿々で行なわれてきた知識生産とその主体、地域が直面する問題を受け止める。地域のステークホルダーの中にも多様な個性、知識、問題認識があるという前提にたち、それをお互いに理解しようとする。
 - 科学者が地域に入るときはもちろん、地域社会が自分たちの地域のことを調べるということも重要。科学者が地域を理解する作業は、そのお手伝いをするということでもある。
- ・ 地域の中の多様性を理解しようとする過程で、潜在的なニーズや潜在的なステークホルダーの存在に気づいていく。
- ・ 地域社会を自己完結的なものと捉えずに、外部からもたらされる情報、圧力、問題なども認識し、それらへの反応の中から視野が拡大したり、問題解決プロセスの作動が始まったりすることにも留意する。
 - ローカルな問題とグローバルな文脈を結合させて問題を設定することは重要。(中村)

【アウトプット】

- ・ 地域社会の理解が熟成する過程で、実現可能なオプションが提起される
 - かみかつ里山倶楽部のワークショップ、ワンダグリンダの情報共有ネットワーク、白保魚湧く海保全協議会などがその例？ここは科学者・SH相互作用の1つのキモ。
- ・ 地域社会の意思決定メカニズムのメインストリーム、キー・ステークホルダーに届く提案を行なう
 - 正統性・実効性確保のための注意深い戦略がある。単に「ボスに擦り寄る」のではないはず。その戦略も地域によって多様。白保、矢作川、上勝、豊岡・・・
- ・ オプションを実施するには、様々な実務能力(事務処理、法制度理解、情報発信など)を必要とする

- 実施に必要な機能は地域のネットワークの中で調達される？ 調達方法も多様。

【ベース】

- ・ 様々なレベルのネットワークで、アクター間、ネットワーク間をつなぐ「ハブ」、多様なアクター間の相互作用を育む「カタリスト」を育てる
- ・ 問題認識を固定化せず、状況の変化に応じて解決すべき問題を定義しなおす順応的な問題フレーミング
- ・ ハブ・カタリストは、地域の個性と多様性を理解すると共に、問題の本質を大局的に見る必要がある。それが順応的問題フレーミングの基礎となる
 - ハブ・カタリストは、レジデント型研究者である可能性が高い？問題解決によりエネルギーを注ぐ場合には、知識基盤としてローカル知により多くを負っているのかも。

(2) 問題解決型の知識生産

【スタート】

- ・ 研究の動機を地域の身内におき、地域の実態、願いを受け止める。それを専門的技術・知識を用いてオプションへと翻訳する
- ・ 科学者だからできることは、越えてはいけない一線を示すこと。地域の願いや状況をより普遍的な視点から位置づけること。

【アウトプット】

- ・ 実現可能なオプション
- ・ 地域環境保全・持続可能な地域発展のための社会システムの開発
- ・ 地域のニーズ、固有性、文脈に沿った知識生産
 - 緊張関係があるはず。→互いの視点や専門性へのリスペクト？

【ベース】

- ・ 問題解決型の知識生産を、組織のミッションとして位置づける
- ・ 順応的問題フレーミング

(3) ステークホルダーと科学者の協働

【ステークホルダー・科学者に共通する心構え】

- ・ 自分の言葉、自分の身体で理解し、ぶつけ合う
- ・ 知識生産主体の多様性の認識
- ・ お互いを尊重しながら、共有可能な認識や目標を見出せるまで辛抱することも重要。
- ・ 自分の専門性、自分の地域に対する誠実さ
- ・ 多様性や差異がある部分と、共通性のある部分が共存する。
- ・ 多様な論理、知識体系があることを認識すること。意思決定メカニズムも、科学も、制度化されたものだけが正しいのではないということ。